

北九州市教育委員会における 業務改善の取組について

～筋肉質な学校組織を目指して～

平成29年11月2日
北九州市教育委員会

北九州市の概要①

人口：950,429人
世帯数：426,677人
面積：491.95km²
(平成29年4月1日推計)



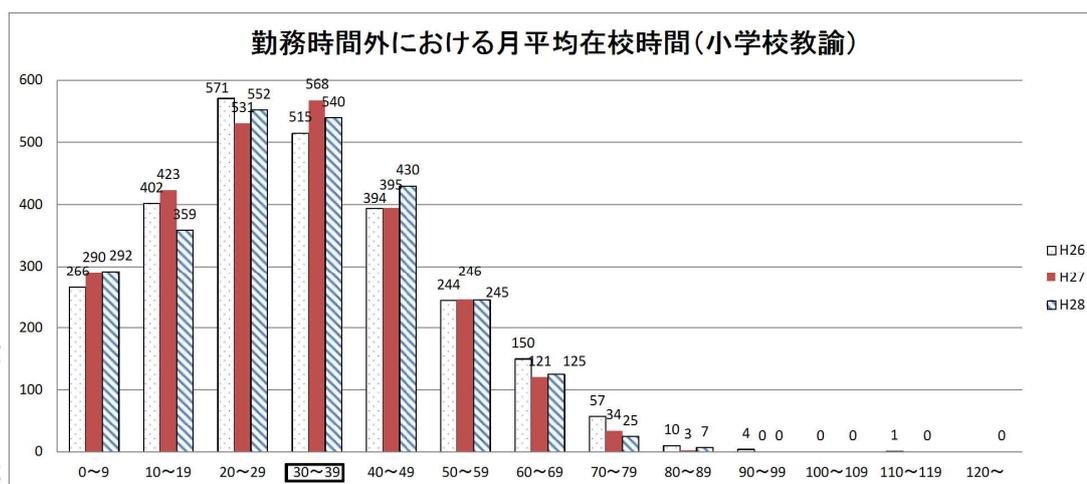
北九州市の概要②

市立学校数等（平成29年5月1日現在）

校種	学校数	児童生徒数	学級数	教職員 現員数
幼稚園	8園	202人	19学級	47人
小学校	※ 132校	47,617人	1,898学級	2,866人
中学校	62校	22,791人	797学級	1,626人
特別支援学校	8校	1,154人	289学級	653人
高等学校	1校	698人	18学級	58人

※分校 1校含む。

学校現場の現状①



	H26	H27	H28
平均値	31時間53分	31時間00分	31時間48分
中央値	31時間14分	31時間04分	31時間32分

☆ポイント

60時間超の割合が減少

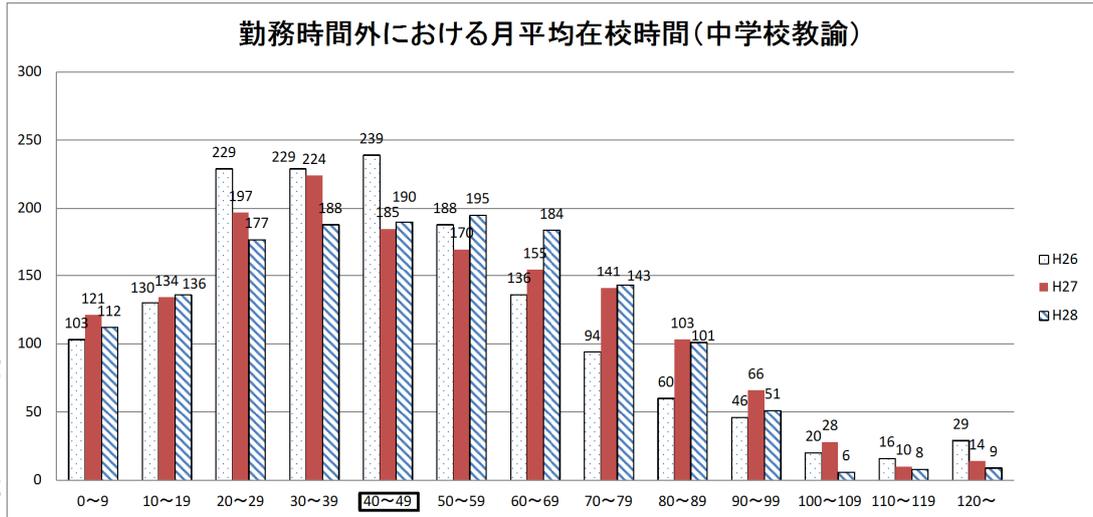
H26年度比で80時間超の割合が減少

在校時間が長い教員の割合

	H26	H27	H28
教員計	2,614	2,611	2,575
60時間超	222	158	157
割合	8.5%	6.1%	6.1%

80時間超	15	3	7
割合	0.6%	0.1%	0.3%

学校現場の現状②



	H26	H27	H28
平均値	44時間59分	48時間08分	45時間55分
中央値	42時間32分	44時間51分	47時間04分

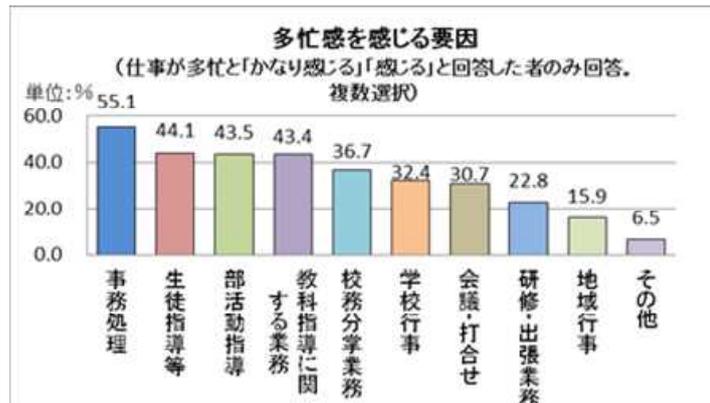
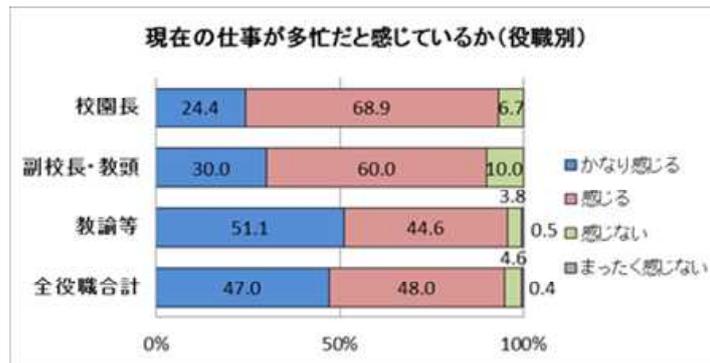
在校時間が長い教員の割合

	H26	H27	H28
教員計	1,519	1,548	1,500
60時間超	401	517	502
割合	26.4%	33.4%	33.5%
80時間超	171	221	175
割合	11.3%	14.3%	11.7%
100時間超	65	52	23
割合	4.3%	3.4%	1.5%

☆ポイント

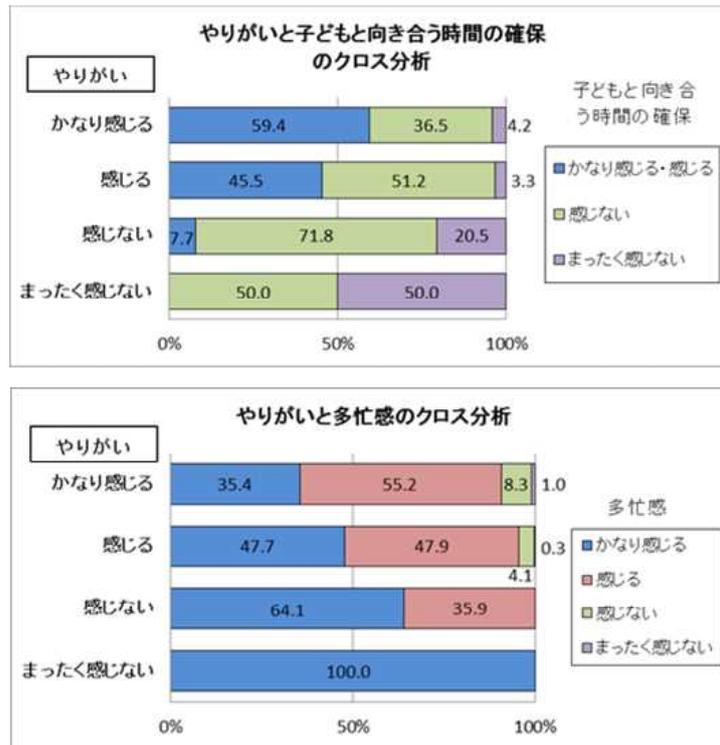
100時間超の教員数の割合が減少

学校現場の現状③



平成28年12月実施アンケートより

学校現場の現状④



平成28年12月実施アンケートより

これまでの業務改善の主な取り組み①

【校務支援システムの導入】

- 平成24年4月（校務機能は平成25年1月）に校務支援システムを導入

校務支援システム 体系イメージ

●教務機能 ・成績管理 ・いっせいくん	●校務機能 ・出退勤管理 ・サービス管理	●保健機能 ・保健管理 ・出欠管理	●学務機能 ・文書管理 ・備品管理
●グループウェア機能 スケジュール(学校行事)、掲示板、回覧板 など			
●学校基本情報			

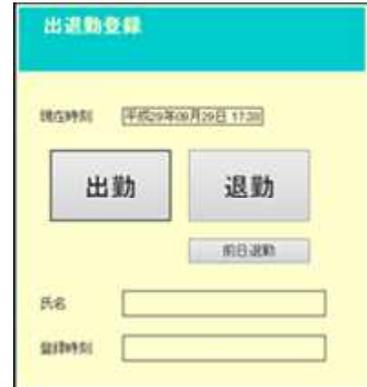
これまでの業務改善の主な取り組み②

【勤務時間管理の実施】

- ・平成25年1月から、校務支援システムの出退勤管理機能を利用して勤務時間を管理
- ・データを教育委員会において把握・分析し、学校への情報提供や健康被害防止対策に活用



【ICカードリーダー】



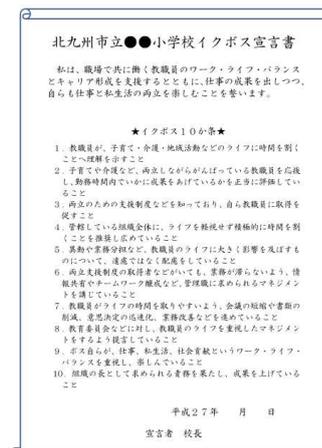
【出退勤登録画面】

これまでの業務改善の主な取り組み③

【ワーク・ライフ・バランスの推進】

- ・平成26年度のワーク・ライフ・バランスの推進についての通知から、月2回以上の定時退校日や部活動休止日を実施すること等を通知

- ・平成27年度から行政職管理職と同様に全ての学校長がイクボス宣言



これまでの業務改善の取り組み④

【学校サポートの充実】

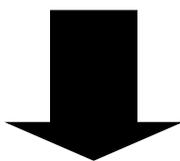
- ・各学校を巡回し生徒指導事案等を支援する指導主事（5名）を配置
- ・教員OB及び警察OBで構成する「少年サポートチーム」の設置
- ・スクールソーシャルワーカー（12名）やスクールカウンセラー（64名）の配置
- ・市の独自措置による、特別支援教育や生徒指導、学力向上等を補助する講師（246名）の配置

【事務処理】

- ・学校への発出文書の見直し、削減
- ・研修の精選

学校における業務改善プログラム①

これまで様々な取り組みを実施してきたが、
学校現場の現状・課題の分析や
業務改善の方針のとりまとめを行っていなかった



平成29年3月

「学校における業務改善プログラム」を策定

学校における業務改善プログラム②

【実施主体】

学 校：主体的に業務改善の取組を実施
教育委員会：学校現場の業務改善に資する取組を実施

【実施期間】

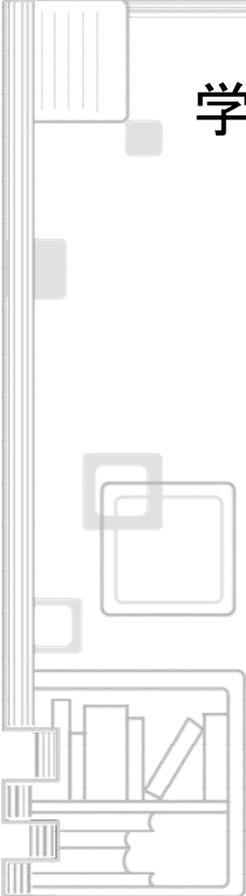
H29：周知期間（モデル事業を実施）
H30～：本格実施



学校における業務改善プログラム③

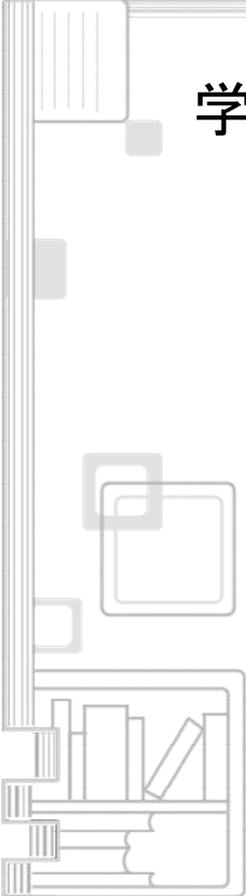
【教育委員会における具体的取組】

- ・「業務改善モデル校」における取組、好事例の創出・普及
- ・基本研修の一部におけるWEBでの事前研修の実施
- ・土日の部活動指導等を単独で行える「部活動指導員」の導入
- ・学校事務職員の標準職務表の作成
- ・給与支給に係る紙帳票の電子化等による学校事務職員の事務負担の軽減
- ・夏季休業期間中の学校閉庁日の設定 など



学校現場における業務改善モデル事業①

- ・ 文部科学省「学校現場における業務改善加速事業（委託事業）」を活用
- ・ 業務改善モデル校5校において取組
 - ①足立小
 - ②二島小
 - ③菅生中
 - ④中原中
 - ⑤門司総合特別支援学校



学校現場における業務改善モデル事業②

【学校事務機能の強化】

管理職、学校事務職員等の業務分担を見直し、学校事務を効率化

〔取組事例〕

- ・ 出勤簿整理、文書振り分け、照会処理など、教頭が行っていた作業を学校事務職員が処理
- ・ 校納金事務への学校事務職員の関わり
- ・ 学校事務職員の職員室での業務実施

学校現場における業務改善モデル事業③

【研修の実施】

業務改善を進めていくためには、意識改革が不可欠であることから、管理職や教員向けの研修を実施

[取組事例]

- ・ 8/24に市内企業から講師を招き、管理職等向け研修を実施
〔企業の取組みの紹介
及びグループワーク〕
- ・ 今後、教員向けにも実施予定



学校現場における業務改善モデル事業④

【菅生中学校の取り組み①】

○学校事務職員の学校経営への参加

- ・ 執務場所を職員室へ
- ・ 運営委員会等重要な会議へ参加

⇒学校経営方針に沿った予算運用が迅速に
教員のイメージを学校事務職員が具現化

○教頭の事務作業を学校事務職員へ

- ・ 学校内部資料作成、出勤簿整理、文書配布、支出関係事務等を学校事務職員へ

⇒教頭が学校経営へ集中
教頭の勤務時間が短縮

学校現場における業務改善モデル事業⑤

【菅生中学校の取り組み②】

○教員の業務改善

- ・ 「実現！ 8時前退勤」 そのための仕組みづくり
- ・ 成果物の整理 「次年度フォルダへ」
- ・ 自己申告書への月の在校時間目標の記入
- ・ 隙間リストの作成
- ・ 学期中の年休取得「菅生休暇」の取得促進
- ・ 北九州市電子申請システムの活用
- ・ 他人の仕事を知る。良い取組が見える化
- ・ 仕事の属人化を無くす仕組みづくり 無駄を無くす

⇒勤務時間に対する意識改革のきっかけに

学校現場における業務改善モデル事業⑥

【菅生中学校の取り組み③】

業務改善のGOAL 「勤務時間を短縮」

《仕組み以外に業務改善を阻んでいるもの》

- ・ 価値観や風土、習慣（誰か残っているから残る×）
- ・ ITに対するアレルギー。（紙でいいですか？）
- ・ 会議の質と量。
- ・ サービスレベルの向上(生徒指導・保護者対応)

だから 仕組みづくり 伝え続ける

学校現場における業務改善モデル事業⑦

【その他のモデル校における取組み】

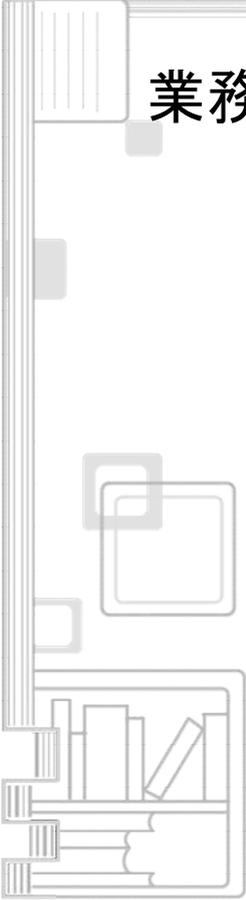
- ・ 時間割（休憩時間）の見直し
- ・ 校務分掌の整理
- ・ 卒業アルバム文集の廃止
- ・ 教頭の出勤時間の見直し
- ・ 運動会のダンスを各学年から低中高学年に
- ・ 地域活動（お祭り）への参加を交代制に
など

⇒小さなことを積み上げていくことが大事

学校現場における業務改善モデル事業⑧

【効果（現時点）】

- ・ 所属教職員の在校時間の短縮
- ・ 教頭の学校経営への関わりの充実
- ・ 学校事務の効率化
- ・ 学校事務職員の職員室での業務に対する
学校内の高評価



業務改善の今後の課題、対応策等

- ◆PDCAサイクルに基づく業務改善の一層の推進
- ◆教員の業務改善方策検討
- ◆業務改善の効果の測定
 - ⇒推進体制の見直し（実務的な検討体制の設置）
 - 業務改善に係るアンケート調査の継続実施
- ◆教員の意識改革の促進
 - ⇒管理職等マネジメント側の研修および
 - 教員向けの研修の実施、充実
- ◆本格実施に向けた好事例の普及
 - ⇒「学校における業務改善ハンドブック」等での
 - 情報発信の充実